

表現プラザ1「みんなでつなぐりレー小説」のヒント

◎結末例集

勇者はひどく赤面した。

「走れメロス」 太宰治

下人の行方は、誰も知らない。

「羅生門」 芥川龍之介

「百年はもう来ていたんだな。」とこの時初めて気がついた。

「夢十夜 第一夜」 夏目漱石

風はまだやまず、窓がらすは雨つぶのために曇りながらまだがたがた鳴りました。

「風の又三郎」 宮沢賢治

次第に更けて行く朧夜に、沈黙の人二人を載せた高瀬舟は、黒い水の面をすべって行った。

「高瀬舟」 森鷗外

丑松は二度も三度も振り向いて見て、ホッと深い大溜息を吐いた時は、思はず熱い涙が頬を伝って流れ落ちたのである。櫓は雪の上を滑り始めた。

「破戒」 島崎藤村

あんな美しいものは、僕はあまり見たことがない。この美しい終止符があるために、僕の記憶のやり切れなさも僅か救われているようなものだ。

「魚の餌」 梅崎春生

そうして、人馬の悲鳴が高く一声発せられると、河原の上では、押し重なった人と馬と板片との塊りが、沈黙したまま動かなかった。が、眼の大きな蠅は、今や完全に休まったその羽根に力を籠めて、ただひとり、悠々と青空の中を飛んでいった。

「蠅」 横光利一

手軽にかぶとや狸々緋を貸したことを、後悔するような感じが頭の中をかすめたときであった。敵の突き出した槍が、おどしの裏をかいて、彼の脾腹を貫いていた。

「形」 菊池寛

そして、この でんでんむしは もう、なげくのやめたので あります。

「でんでんむしのかなしみ」 新美南吉